



令和元年度 No.2 第 131 号 令和元年 9 月 26 日

一般社団法人
富山県作業療法士会
ニュース

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋藤 洋平
印刷 (株) チューエツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.sakura.ne.jp>
富山県作業療法士会会員数：665人

再度学ぶチャンス!!

一般社団法人 富山県作業療法士会 理事 藤井 智子 (金沢医科大学水見市民病院)



2018年度から一般社団法人富山県作業療法士会の理事を拝命しました。はや、一年が経ちました。

14年前に一度理事を拝命され、今回は2度目となります。理事を一度辞めてか

からは、県士会活動は積極的には参加していませんでした。なので、理事に再任し、組織の活動など変化したところがたくさんあり、一年間は理解していくのに精一杯でした。

県士会での私の役割は、学術部長、災害委員会担当理事、老人部会担当理事です。

理事になってからは、県士会の研修会や協会の研修会に参加させていただき、他の病院の方や他の県士会の方とも話をすることができ新しい情報が得られたり、OTを取り巻く情勢や今やるべきことなど再度学ぶチャンスを頂いています。

災害に関しては、富山県は災害が少ない県であり、災害への関心はまだ少ない現状です。

現在の日本は異常気象もあり、富山県もいつ何時災害が起きるかわかりません。これから災害は

他人事ではない！とされています。災害への知識を備える必要があります。

災害時にOTとして何が出来るか考えていく必要があります。災害支援はOTが活躍できる場でもあると思います。また、災害活動を通じてOTを知っていただくチャンスにもなっていると思います。

富山県内でもJRAT (JAPAN DISASTER REHABILITATION Assistance Team: 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会) の発足が予定されています。

いろんな関係機関との関係性の構築も大切だと思います。まずは県士会員の皆様への意識づけから実施し県士会レベルでの研修会の実施も必要と思っています。また、情報発信していければと思っています。

2017年から災害委員会で実施しています会員全体の災害情報伝達訓練におきましては、今後ともご協力の程宜しくお願い致します。

今後は、若い世代の方に引き継げるように理事を務めていきたいと思っています。

富山県の作業療法を盛り上げていきましょう！
宜しくお願い致します。

第13回精神障害部会を終えて

松岡病院ダイケア 成田 大樹

6月29日(土)に谷野呉山病院で行われた精神障害部会の研修会に参加させて頂きました。脳と心の総合センターのセンター長をされている精神保健福祉士の宮部真弥子先生による「地域移行支援に必要な知識と技術」をテーマにした講義でした。

まず、我が国の精神保健医療福祉の経緯について学びました。以前は、精神病院中心となっていて、患者様は長期入院を余儀なくされ、退院が難しい事が多くありました。しかし、現在では平成16年に策定された「精神保健医療福祉の改革ビジョン」により、「入院医療中心から地域生活中心へ」という新しい理念が提唱されています。そして、それまでの病院中心から退院後の住まいを中心とした地域包括ケアシステムの構築、入院中の患者様が退院後、円滑に地域生活へ移行できるよう地域移行支援を積極的に行う等、精神保健医療福祉制度の抜本的見直しが行われました。

続いて、地域移行支援において基本とされる「退院に向けた9の安心」を学びました。9の安心の内、特に重要なものとして①お金、②住まい、③日中の事、④仕事、以上4点を上げられました。特に私が衝撃を受けたのは、住まいについて宮部先生がお話しされていた時です。先生は、患者様の約80%がグループホームに空きがない為退院できない、と言われました。私の勤務する病院では、そういったことがあまり起きなかった為本当にビックリしました。

その後、地域移行支援を行うに当たって何が一番必要か教えて頂きました。地域移行支援は何よりも「本人が退院して、暮らしたい場所で、過ごしたい日常を過ごせるように」という理念を第一にし、相談支援事業所の相談員が担当します。しかし、相談員一人で行うのではなく、Dr、Ns、PSW、OT、保健師、行政、等様々な職種は勿論、本人とご家族、ピアフレンズも協力してみんなでチームとなって退院後の住まい、日中活動、不調時の対応、金銭と服薬管理等の課題に取り組んでいかなければならない事を学びました。こういった医療のみならず福祉に関わる分野においてもチーム医療が取り入れられており、支援体制作りが整備されていると感じました。



また、退院後の生活に対して不安を抱いている患者様に対しては、本人の気持ちを傾聴しそれを大切にすることがやはり一番大切だと改めて学びました。

OTとして出来る地域移行支援としては、OT中どういった声掛けを行っていたか、どのような表情・素振りで行っていたか等の情報提供、高齢化・身体合併症に対するの評価・リハを挙げられました。

私はダイケアで働いており、利用者さんの多くはすでに地域生活への意向を概ね終えた方が殆どであり、地域移行支援と言う分野に関わったことがありませんでした。その為、講義を受講するまで、私は地域移行支援は主にPSWが主体的に行う物であり、患者さんも積極的に行って欲しい支援だと思っていました。しかし、受講して地域移行支援はPSWや相談支援専門員を始めとした各職種がチームとなって行わなければならないこと、患者さんの中には経済的、家庭的等様々な理由で退院したくても退院できない方がいることが分かりました。また、患者さんは退院に当たって様々な不安を抱えている事も分かりました。特にお金と仕事のことについて思い悩み、不安を感じてる方が多いというお話を聞いて、普段の臨床場面でも経済的な事情や将来の就職先について思い悩んでいる利用者さんに、どのように励まし支援していくか難しさを強く感じています。これからも、様々な研修会などの貴重な機会を通して知識を身に付け、患者様の支援を行えるように成長していきたいと思っています。

発達障害部会の研修会に参加して

魚津市立つくし学園 舘 理歌

7月27日(土)に発達障害部会の研修会に参加させていただきました。長崎大学の岩永竜一郎先生による「青年期・成人期の自閉スペクトラム症者への支援」をテーマとした研修会でした。将来を見据えていく上で、幼少期からどのような関わりが必要かについて具体的な支援方法を教えていただきました。

午前の講義では、対人関係と注意の問題への対応やコミュニケーションにおける工夫、記憶の苦手さへの対応を発達障害の基礎と共に学びました。対人関係では、安心して話せる相手が職場に必要なこと、自己修正が難しい人には傷つけないように社会スキルを伝えること、暗黙の了解は分かりづらいことが多いので明文化して伝えることなどがあげられました。記憶の苦手さへの対応では、携帯電話やカレンダー、アラーム機能などを組み合わせること、メモをとることを日常習慣にすることが挙げられており、障害がある人だけでなく、私たちが日常生活の中で利用するとスムーズに作業がはかどるものが多いと感じました。障害の有無に関わらず、私たちが環境が整うと作業がスムーズに行いやすくなるので、日頃の療育では、個々の評価を踏まえた上で、特性に合わせた環境設定を行って将来に繋げていきたいと思いました。

午後の講義では、将来を見据えた支援につなげるための評価や将来につなげるための介入と支援について学びました。適応行動の評価としてバイナランドⅡや、ASA旭出式社会適応スキル検査などが紹介され、対象年齢や方法を詳しく教えていただきました。

将来につなげるための介入では、特に今の自分が関わるお子さんたちに近い話を聞かせていただくことが出来ました。私の働く施設では障害のある未就学児が通園しており、子どもたちと関わる際には職員全員で、褒めることを意識しています。褒めることは一見簡単そうですが、一日の生活を

思い返すとあまり褒めてないな…と反省する日もあります。岩永先生は褒め方について、子どもの行動を「フォークでご飯食べてるね」「宿題してるね」などと実況中継して、具体的に伝えることで、子どもは見てもらえているという満足感が感じられ、大人も自然とよい事を言葉に出して伝えられ、褒めている状況が出来るそうです。日々の療育でも実況中継の褒め方を取り入れて、達成感と満足感をお互いに感じながら、子ども達の成長に繋がる関わりをしていきたいと感じました。

今回の研修を通して、毎日様々な場面で子どもの支援をする私たちが、評価や生活の中で苦手な部分や特性を理解し、卒業してから関わられる方々に苦手な部分を伝えるだけではなく、得意な部分や適応行動の評価した内容を伝えて行くことが大切だと思いました。また私たちが子ども達の特性を理解するだけでなく、保護者さんや子ども達にも将来を見越した生活を考えて、二次障害を回避するためのストレス解消法や、困った時のSOSの伝え方を教えていくことも必要だと感じました。幼少期は大人の関わり方で様々な方向に成長していきます。この大切な時期を、子ども達が明るく楽しい未来になるように、毎日の関わりを他職種で連携をしながら、よりよい療育が出来たらと思います。



作業療法体験会に参加して

富山西リハビリテーション病院 滝林 奈津美

今回、令和元年7月21日に呉西地区作業療法士体験会が開催され、私は普及指導部員として参加させていただきました。参加者は高校3年生15名、2年生9名、1年生10名の計34名でした。作業療法士の仕事に就きたいと思っている方、作業療法士の仕事を知りたい方など、さまざまな方が参加されました。



作業療法士体験会の内容は、始めに概論、身体障害・老健・発達の各分野のスライド発表、自助具作成(ソックスエイド)、座談会がありました。スライド発表では、「理学療法士と作業療法士の違いが分かった」や「働く場所によってリハビリ内容が違うことが分かった」などの声が聞かれました。今回私は、身体障害領域の作業療法士について発表を行い、改めて作業療法士とは何かを考えることが出来る良い機会になりました。



ソックスエイド作りはグループごとに分かれて行いました。自助具作りに関して「実際に自助具を使われている方の不自由さが分かり、より相手の気持ちがわかるようになった」と聞かれました。作成したソックスエイドを実際使用していただくことにより、どんな方に必要なのか、使用する目的を分かりやすく伝えることが出来たと思います。



今回の体験会がきっかけで「作業療法士に興味をもった」、「作業療法士を目指したいと思った」という声が多く聞かれ、とても嬉しく感じます。私は働き出してから、作業療法士の魅力ややりがいをたくさん感じる事が出来ました。今後も作業療法士の魅力をたくさんの方に知っていただけるように、体験会のような活動は大切だと思います。私もたくさんの活動に積極的に参加していきたいと思っています。



第19回IT機器レンタル事業 「作業療法士が行うIT活用支援研修会」を終えて

福祉用具支援事業委員会委員長 太田 悠介 (深川病院)

令和元年6月29日、30日に日本作業療法士協会と共催で所属する福祉用具支援事業委員会が準備・運営を行い無事に研修会を開催する事ができました。

研修を開催するきっかけは静岡県こども病院の鴨下賢一氏から当委員会委員へ開催の提案を頂いた事からでした。お話を頂いた後に当委員会の今年度の事業とし、委員会にて打ち合わせ、協会の担当の方とやり取りを重ね準備を進めてまいりました。

私自身は初めての研修会運営で慣れないゆえに苦労も多くありました。そんな中、フォローをして下さる委員の方々や担当理事に助けられながら開催にこぎつける事が出来ました。

今回の研修では様々なコミュニケーション支援機器や身近なスマートフォンのサポート機能（アクセシビリティ）の活用など多岐にわたる体験や、事例紹介、制度に関するお話、パネルディスカッションなどがありました。その内のパネルディスカッションで私自身の経験から「富山県内におけるIT支援ネットワークの現状と課題」についてお話しする機会を得、個での支援とならざるを得ない現状や県士会外からの情報提供も得ながらグループワークで富山県内の課題の抽出と、県でのIT支援を行うための地域ネットワークに向けた意見交換が行われました。

現状としては県内にIT支援のネットワークは構築されておりませんが、“支援をしている”もし

くは“興味がある”人同士のつながりから始めるのも一つの方法と提案も頂きました。

つながりという点においては、今回の研修の講師陣の中に学生時代に大阪の実習先の病院で新人として働いておられた方が居られ、久しぶりの再会となりました。そこでまた新たにIT相談の窓口を頂く形となり、縦・横の繋がりの大切さや難さを実感しました。

今回の研修は2日間の構成で、参加者の人数と内訳は初日の県内OTの参加が36名、県外OT18名、他職種3名の計57名、2日目の県内OT30名、県外OT12名、他職種4名の計46名でした。中には遠路はるばる大分県からの参加者も居られました。

コミュニケーション支援やIT支援と聞くと普段関りがないと特別感や距離感のようなものを抱かれる方が少なくない現状があります。勤務する分野などにより経験する機会そのものが無い場合もあるかと思えます。しかし、経験上はある日突然依頼が来て対応を求められる事になります。最低限の知識として福祉機器展や勉強会に参加し情報を得たり、つながりを持っておくことは備えとなり、支援される側にとっても安心感につながるかと思えます。身近なトランスファーボードの正しい使用と同様の感覚で押さえておいても良いのではないのでしょうか。

ところで余談ですが、皆さんはスライディングシートやトランスファーボードなどの身近な福祉用具は正しく使用・活用できていますか？



～地域アドバイザー委員会から～

地域包括ケアシステムとOTの「いいね！」のために

委員長 赤尾智子（富山赤十字訪問看護ステーション）

地域アドバイザー委員会は、県士会の中にあって認知症や運転支援、福祉用具や災害対応などと並び、時代の要請に合わせて制度対策として設けられた特設委員会の一つです。目的とするのは地域包括ケアシステムに関する士会員の学びを推進する事、作業療法士として地域包括ケアシステムに資する人材育成を推進する事、です。

「地域包括ケアシステム」は近年頻りに聞かれる言葉ですね。でも私には関係ないわ、と知っている方も多いのではないのでしょうか。だってそうでしょう？介護保険の関係でしょう？高齢者の話でしょ？いえいえ、実は地域包括ケアシステムは高齢者だけが対象ではなく、障害者や子どもを含め地域で暮らす全ての人にとって関わりのある仕組みです。その目指しているものは、自助・互助・共助・公助の力を使って、自立・自律の支援を目標に共に生きる地域社会であり、誰もが自分らしい生き方や暮らしを人生の最期まで続けることが出来るようにすることです。

私達が作業療法士として働き、対象として向き合っている方たちは様々です。分野で言えば老人・精神・身障・発達という分け方や急性期・回復期・維持期というくりに当てはめられるかもしれません。関わりをもち働いている場所も、病院や施設、在宅や地域、行政などそれぞれに異なっているでしょう。でも、共通して言えることがあります。私達は、身体や精神・心理面の疾患により、何らかの生活行為上の悩みや問題・課題を抱えている方たちの自立・自律支援を目指し、課題解決の為に作業療法の技術を提供しているという事です。子どもから高齢者まで、体の事から心の事まで、保健・福祉や医療・介護まで、予防期から終末期まで、病院・施設から在宅・地域まで、誰もが、どこにいても、どのようであっても、それぞれに様々な生活行為を積み重ねて生きていて、そこに生活課題がある限り、どのシーンでもOTのニーズはあり、私達は常にその支援の一端を必ず担っています。

つまり、私達は作業療法士である時点で既に「地域包括ケアシステムに資する」力を持ち合わせているのです。ただ、そうは言っても制度の事はやはり複雑で難しくて身近でない感じでよく分かりませんよね。そこで、皆さんに関心を持ってもらい、情報共有し、学んだり考えたりする研修会などを企画しているのが地域アドバイザー委員会です。また皆さんから地域支援事業に関する実績報告をお寄せいただき、実情の把握にも努めています。

現在、新川地区7名、富山地区12名、高岡地区7名、砺波地区8名の総勢34名で活動しています。昨年度から地区ごとの活動を重視して勉強会・研修会を展開しており、今年度は前期に「地域ケア会議」、後期に「介護予防」をテーマに挙げています。随時地区ごとの回覧や県士会HP上でご案内しますので、是非奮ってご参加ください。

<地域アドバイザー委員会からのお知らせ>

「地域リハビリテーション活動支援事業実績報告」が県士会HPで入力、閲覧できるようになりました。これまで通りFAXやメールでの報告も可能ですが、是非HPからの直接入力にご協力ください。なお、閲覧にはIDとパスワードの入力（いずれも[tiiki]）が必要です。

富山県内の運転支援の最前線を 知りたくないですか？

運転と作業療法委員会委員長 丁子 雄希 (富山リハビリテーション医療福祉大学校)

2011年に栃木県鹿沼市でてんかん患者によるクレーン車事故、2012年には京都府京都市でてんかん患者による車の暴走事故が起こり、社会問題になったことは記憶に新しい。

これらの事故が契機となって、一定の病気等に関する質問票の提出義務、医師による届け出制度、免許の効力暫定停止制度、道路交通法の改定など、次々に本邦の運転制度のあり方が変化してきています。クライアントの運転支援に関わる我々作業療法士は、常に運転支援に関する知識のアップデートが求められ、これからも緊張感をもって支援にあたらなければならない。

前号の吉村裕子理事（富山西リハビリテーション病院）の記事では、「運転と作業療法委員会」の立ち上がりの経緯や目的について述べられていました。その内容を受けて、本記事では、現在の取り組み状況をお伝えしたいと思います。

当委員会では、今年度2つの事業に取り組んでいます。1つ目は、「作業療法士のための運転支援に関するパンフレット作成（試作版）」です。このパンフレットは、若手や運転支援にあまり携わっていない作業療法士に対して、運転支援の足がかりになることを目指しています。内容に関しては、運転再開までの流れや運転支援に関する法律、各病院の実践内容などを盛り込む予定です。今年度中に完成予定ではありますが、このパンフレットはあくまで試作版になりますので、みなさんの意見を聴取し、さらに

内容を充実させて実践で利用しやすいものにしていきたいと思っております。そのため、パンフレットが完成しましたらどしどしご意見をお聞かせください。

2つ目の事業は、「運転支援に関する研修会の開催」です。昨年度、公安委員会の方と顔合わせを行いました。そのときに当委員会で開催する研修会に講師に来ていただけないか打診をしておりました。その甲斐あってか、このたび承諾をいただくことができました。研修会は2019年12月21日(出)の午後からを予定しております。この研修会では、県内で運転支援に力を入れている各病院の取り組みの紹介や、公安委員会の方から法制度や、公安委員会で行われている適性検査についての話をしていただく予定です。県内の運転支援の最前線を感じられる貴重な機会となりますので、みなさまからの多くのご参加お待ちしております。

末筆となりますが、現在、本委員会は私を含めて11名で構成されています。もしみなさんの中で運転支援に興味のある方がいましたら、いつでもご連絡ください。私達と一緒に県内の運転支援を盛り上げていきませんか？



施設紹介

真生会富山病院

渡辺 沙由里

真生会富山病院は、射水市大門地区の田んぼの真ん中にあり、のどかな景色に囲まれ、天気良ければ1階にあるリハビリ棟からも立山連峰が一望できます。当院は12の診療科と、腎透析センター、糖尿病センター、アイセンター、消化器センター、検診センター、患者支援センターの6つのセンターを併せ持ち、射水市民病院とともに、射水市の中核病院としての機能を担っております。病床数99床ながら、外来診療に力を入れており、1日に1000名以上の方が来院されます。その仕組みは、自利利他の精神（相手の幸せが自らの幸せとなる）という病院理念のもと、仕事を休めない方のために、月・水・金の週3日は、夜19時まで外来診療を受け付けているところにあります。リハビリテーション科でも、入院患者も担当しながら、夜の外来も行っており、仕事帰りに多くの方がリハビリを受けに来られます。勤務時間が遅くなり大変ではありますが、患者さんから「真生会は夜遅くまでやっているから助かるわ」と言っただけなのが嬉しく、それらの言葉を励みに、日々診療にあたっています。

リハビリテーション科のスタッフは、PT10名、OT6名、ST4名、柔道整復師1名、あん摩マッサージ指圧師1名、リハビリ助手2名の総勢24名で構成されています。リハビリニーズの増大とともに近年スタッフが急増し、スタッフルームが手狭になっているのが悩みです（笑）。作業療法士6名のうち、主に外来を診るスタッフが2名、地域包括ケア病棟専従者を含む入院を主に診るスタッフが4名います。来年度からは、併設されている訪問看護ステーシ



ョンから訪問リハビリにも行くように計画中です。日々の診療とは別に、外来の方に対する運動推進に関わるスタッフや、認知症カフェを運営しているスタッフ、タッチングケアに携わっているスタッフもあり、要望に応じて多岐にわたって活動をしています。

また当院には「肩関節鏡手術専門家集団」に所属し年間100件以上の肩関節鏡手術を行う医師が常勤しております。そのため富山県全域や、まれに他県からも腱板損傷の方が多く来院され、術後のリハビリや保存でのリハビリを受けておられます。リハビリ指示がある疾患内訳としては、そのような腱板損傷の方の他に、肺炎や尿路感染症後の廃用の方、がんの方、骨折の方などが多いです。小中学生から90代までの幅広い年齢層の方々と日々接し、時には患者さんからも元気をいただきながら、リハビリを行っています。患者の皆様と共に笑顔のあふれる病院を目指し、これからも精進してまいります。今後ともよろしくお願いたします。



会員リレーコラム



杉野脳神経外科病院

深山 浩志

私は作業療法士として働いて今年で4年目となる杉野脳神経外科病院の深山といいます。富山医療福祉専門学校を卒業後、現在の職場に入職しました。趣味は様々ありますが、特に釣りが好きであり週末には必ず行くほどです。私の好きな老子の言葉に「人に魚を与えれば一日生かすことができるが、人に魚釣りを教えれば一生養うことができる。」とあり、作業療法にも通ずる深い言葉だと思います。特に富山県では比較的、海へのアクセス

会員の皆さん、こんにちは。通所リハビリのびのびの位寄さんからバトンを受け継ぎました。今回、このようなコラムを書くのは初めてですが、位寄さんからお話をいただき書かせて頂くこととなりました。私からは自己紹介と働いている病院の紹介を行いたいと思います。

が容易なためか患者さんでも釣りをする方が多く、話しが盛り上がる場面も多々見られます。もちろん趣味だけではなく、及ばずながら勉強の方も私なりに力を入れています。今年第6回日本臨床作業療法学会にて初めての事例発表をし、事前準備の大変さやアウトプットの難しさなど新たな知見を得ることが出来ました。さて次に職場紹介に移ります。杉野脳神経外科病院は一般病床51床と小さな病院ではありますが今年より地域包括ケア(16床)を開始し、昨年からは訪問リハを開始するなど地域中核病院を目指しております。リハビリ科は現在理学療法士5名と作業療法士3名で構成されています。小規模ですがリハ科のみんなは勉強熱心であり患者思いのセラピストばかりであり、私も刺激を受け日々研鑽に励んでおります。まだ至らない所も多く未熟なため、今後県士会の皆さまにお世話になることもあると思いますがどうぞよろしく願いいたします。ここまで読んでいただきありがとうございます。このリレーバトンを「富山医療生活協同組合富山協立病院」の石井公平さんへ渡したいと思います。



魚津緑ヶ丘病院

渡辺 啓太

当院では、精神科一般病棟、精神科閉鎖病棟、認知症病棟の3つの病棟があり、現在私は認知症病棟の担当の作業療法士として認知症の患者様の生活支援や作業活動に取り組んでいます。認知症で入院している方が現在はかなり増えており、その中でも重度の方が認知症病棟に入院されています。自発性が乏しい方や、徘徊や粗暴行為等の不穏症状の強い方が多く、活動に参加すること自体が困難な方も多いです。そのためどのように反応を引き出すか、その患者さんの得意なことや興味のあるものは何なのか、今

県士会の皆さんこんにちは。魚津緑ヶ丘病院に勤務しております渡辺です。作業療法士となり今年で2年目です。入善老人保健施設こぶしの庭の谷口さんからバトンを受け継ぎ今回のコラムを担当させていただきますことになりました。

の能力でどこまでできることがあるのかを実際の生活場面や作業療法活動の中で他職種の方と相談しながら日々取り組んでいます。

今年度より、活動プログラムとして小集団での回想法を導入しています。回想法とは昔の思い出を写真や音楽、昔使っていた馴染み深い家庭用品を見たり、触れたりすることで昔の経験や思い出を語り合うもの心理療法の一つで、脳の活性化や不穏症状軽減に効果があるといわれています。実際にこの活動を取り入れることで、普段はあまり話そうとしない方も昔の道具や季節行事の写真を見て昔のエピソードを積極的に話して下さる方も多いです。患者さん同士が和気あいあいと会話を楽しんでいるのを見て、良い交流の場を作ることができたと感じています。私は休みの日に自転車に乗り地元の風景写真を撮るのが趣味で、今後の回想法の話のネタとしてその風景の写真を利用できればいいなと考えています。

最後に、次のバトンは富山県済生会高岡病院の近藤咲希さんへ渡したいと思います。

新入会員の横顔

1. 名前
2. 施設名
3. 出身校or旧所属施設
4. 趣味・特技
5. 富山のおすすめスポット
6. OTとして働いてみての感想
7. 今後チャレンジしたいと思っていること



1. 梶 直美
2. 富山リハビリテーション医療福祉大学校
3. 金沢大学医療技術短期大学部
4. ゲーム（ブラウザ三国志、ツムツム）
5. 金沢に住んでおり、富山は今後開拓予定
6. 会社員に比較するとあらゆる面でアットホームで働きやすい

7. 富山県地域リハビリテーションのさらなる活性化



1. 稲垣 有紀子
2. 富山西リハビリテーション病院
3. 専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
4. 趣味：登山
特技：犬に芸を教えること
5. ボルダリングジム
リッジライン

6. 患者さんの生活や人となりを知るために、良き理解者となり、ささいなことに気づき、また多方面から見る視点が必要だと実感し、力不足を実感しました。ですが患者さんから感謝の言葉をもらうと嬉しくやりがいを感じます。もっと勉強したいと思います。

7. 促通反復療法などの手技を勉強したいと思っています。プライベートでは年に1回は立山登山に挑戦したいです。



1. 近藤 美友
2. アルペンリハビリテーション病院
3. 専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
4. 買い物
5. 糸庄のもつ煮込みうどん
6. 患者様と目標を共有する事の難しさを知りました。今後も良いアプローチに向けて経験を積んでいきたいです。

7. 10年後に認定作業療法士になり、15年後には専門作業療法士になりたいです！



1. 宮崎 真琴
2. 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
3. 金沢大学
4. 趣味は、甘いものを食べることです。たまに料理教室へ通っています。
5. 高岡にあるDOCGというカフェがおすすめです。海を見ながら美味しいご飯を食べることができます。

6. 複数の患者様を担当させていただき、想像していた以上に時間もなくて大変だと感じました。しかし、患者様とコミュニケーションをとりながらリハビリしたり、退院される方から「ありがとう」という言葉をいただいたりと嬉しいこと・楽しいことも沢山ありました。

7. 自宅でパンを焼いた事がないので、美味しいパンを作りたいと思っています。



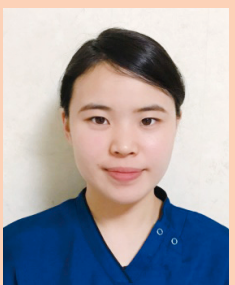
1. 永沢 梨乃
2. 富山西リハビリテーション病院
3. 群馬医療福祉大学
4. 趣味は舞台観賞で、特技は長時間眠れることです。
5. 島尾海岸
6. 毎日学ぶことがたくさんあり、毎日知識不足を痛感します。

7. OTとしては反復促通療法を習得すること、私自身では体を鍛えたいと思っています。



1. 金盛 美樹
2. 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
3. 群馬大学
4. ご飯屋・カフェ巡り、運動
5. 牡蠣ノ屋、古風居
6. 患者様の退院後の生活像も考えないといけないので、大変だがやりがいのある仕事だと感じました。

7. 知識を増やして、それを実践で生かしたいです。



1. 吉澤 ほの香
2. 市立砺波総合病院
3. サンビレッジ国際医療福祉専門学校
4. ドライブ
5. Tiem com Vietnam
6. 学校で学んできた内容では、現場で通用せず自分の未熟さを痛感しながら日々勉強させていただいています。
7. 何か習い事をしたいと思っています。



1. 戸田 耕平
2. 市立砺波総合病院
3. 南砺総合福光高校
4. ドライブ
5. 富山に帰ってきたばかりなのでおすすめスポット等あれば教えてください
6. 以前は回復期で働いていましたが、仕事内容が異なって目が回っています。め

げずに頑張ります！

7. まずは、たくさんの勉強会に参加し、切磋琢磨していきたくと思っています。



1. 松永 佳子
2. 魚津老人保健施設
3. サンビレッジ国際医療福祉専門学校
4. 手芸等の物作り
5. 小さな子供がいることもあり、よく黒部総合運動公園に行きます。ザリガニ釣りや昆虫採集、遊具で遊んだり、噴水で水遊びをする

等楽しめる場所でお勧めです。

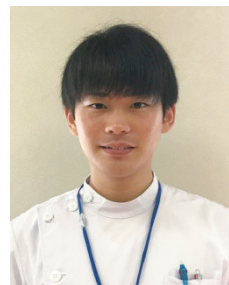
6. 利用者の方と関わるのはとても楽しいです。病前の生活を知ることやその中で大事にしていたことは何か、今何が出来るのかを知り、目標までつなげることが難しいと感じています。
7. 空いている時間で作品をたくさん作り、イベント等に出展してみたいです。



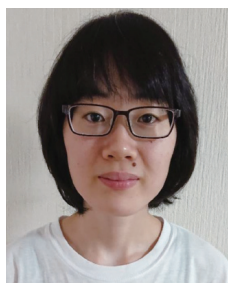
1. 黒田 あずさ
2. かみいち総合病院
3. 富山医療福祉専門学校
4. 旅行、ソフトボール
5. 称名滝
6. 1日にたくさんの患者様を治療するため、実習生の際とは異なり、1人の患者様について考えていた過程を、毎日自分のすべての担

当患者様に対応していく大変さ・自分の知識不足を実感しました。また、回復期病棟で勤務しているため、他職種連携、情報共有を行うことの大切さも感じました。

7. フルマラソン、登山



1. 杉木 勇介
2. 済生会高岡病院
3. 富山医療福祉専門学校
4. 野球観戦
5. ひみ番屋街
6. 慣れないことばかりで大変ですが、日々勉強し患者さんに頼りにされるOTになりたいです。
7. 何か熱中して取り組めるスポーツを見つけたいです。



1. 佐藤 美聡
2. 新川老人保健施設
3. 富山医療福祉専門学校
4. ゲーム、動物が好き
5. 富山市ファミリーパーク
6. 観察力がまだまだ足りなかったり、計画的にリハビリしたりすることが大変ですが、利用者さんと会話することがとても楽しいです。

7. 利用者さんが楽しんで頂けるような作業活動を提供していきたいです。



1. 竹田 はるか
2. 市立砺波総合病院
3. 浅ノ川総合病院
4. 映画・ヨガ
5. チューリップ公園
6. 学べば学ぶほど奥が深くやりがいのある仕事です
7. 毎日幸せに暮らすこと!!



1. 阪本 彩佳
2. 南富山中川病院
3. 富山医療福祉専門学校
4. バスケットボール
5. 風の城
6. 利用者の方々との関りはとても楽しく勉強になりますが、日々知識不足だと実感します。所属先にOTが一人のため不安なことも多いですが、デイケアならで

はの生活に寄り添った作業療法が行えるよう、努力していきたいです。

7. いろんな動物と触れ合いたい



1. 道端 栞
2. 温泉リハビリテーションいま泉病院
3. 杉並リハビリテーション病院
4. 水族館鑑賞、森林浴
5. 神通峡、ヒスイ海岸
6. 技術や知識の不足を痛感する日々です。臨床や勉強会を通して、少しずつ経験を積んでいきたいです。
7. 1人旅行



1. 片山 礼子
2. 介護老人保健施設 さくら苑
3. 松原病院、ろうけん桜並木 (石川)
4. ドラマを見る事が好きです。
5. さくら苑近くの岸渡川沿いの桜がきれいです。
6. 人生の先輩方の話を興味

深く聞いています。
7. ピラティスをやってみたい！



1. 萩原 志穂
2. 済生会高岡病院
3. 金城大学
4. 旅行
5. 環水公園
6. 初めは業務を覚えることに精一杯でしたが、慣れてきてやっと少し患者さんを治療することに楽しさを感じれるようになってきました。

また、新しい患者さんを担当するたび、分からないことも多くあり、まだまだ勉強不足だと日々実感しております。
7. 生れてから今までインドアな生活を送ってきたので、社会人を機会にスポーツなどアクティブなことにも挑戦したいです。



1. 松谷 美桜
2. 老人保健施設シルバークア今泉
3. 富山医療福祉専門学校
4. バレーボール
5. 環水公園
6. 毎日勉強することが多く大変なこともあります、なにより楽しく毎日働いています。

7. 手話を本格的に勉強したい



1. 弥生 竜嗣
2. 医療法人社団 秋桜 丸川病院
3. 専門学校金沢リハビリテーションアカデミー
4. 趣味は車いじりや洗車、特技は短時間できれいに車を洗うこと
5. 糸庄のもつ煮込みうどん
6. 患者さん一人ひとり、さまざまなこだわりをもって

おられお話を聞くことによって自分の価値観も少し変わるところが出てくる。先輩OTが一つの問題に対するアプローチとして自分では気付かない良い方法でアプローチすることが多く、自分はまだまだ見ている世界が狭いと思いました。
7. 仕事の面では基本的なことですが作業療法によって良くなったところが、なぜ良くなったのか、どういう機序で良くなったのかを説明できるように勉強していきたいと思っています。仕事以外の面ではバイクに乗ってツーリングしたいのでバイクの免許を取るために自動車学校に行きたいと思っています。



1. 野坂 綾華
2. 医療法人社団 秋桜 丸川病院
3. 富山医療福祉専門学校
4. 運動、お菓子作り
5. 入善牡蠣ノ星
6. 知識や技術がまだ不足している為、上肢機能や高次脳機能などの問題点に対応したアプローチ方法を考えるのが難しいです。また、

機能回復訓練やADL訓練を行いながらも福祉用具を選定したりと退院に向けた取り組みも同時に行っていく事が大変です。

7. OTとしての経験を積み、知識や技術を更に身に付け、患者様に合ったアプローチを提供出来るよう、勉学に励みたいです。



1. 濱谷 有希
2. 介護老人保健施設 みしま野苑一穂
3. 富山医療福祉専門学校
4. よさこい、パン作り、カラオケ、ゲーム
5. 射水市大島絵本館
6. 先輩方にアドバイスをいただきながら自分の得意分野を活かせるよう日々模索しています。利用者様により

良い生活を送るためのお手伝いが出来るように頑張っていきたいです。

7. 興味ある資格の取得



県学会のお知らせ

第19回 富山県作業療法学会

令和2年2月23日(日) 砺波市文化会館 にて開催！

今回の学会は「自律の再考」がテーマです。

がむしゃらに頑張ってきた「平成」という時代が終わり新たに「令和」となりました。

これからのOTはどうあるべきなのでしょう？

OTの強みである「自律」について、もう一度一緒に考えてみませんか！

内容としては以下を予定しています。

技術講座…ご当地体操（100歳体操、ほっとあつとなんと体操）やコグニサイズの紹介、実技

特別講演…「自律について」（仮題） 千葉県立保健医療大学准教授 安部能成 先生

安部先生を交え3名（急性期・在宅・精神科など）とのパネルディスカッション

また口述・ポスターの演題を絶賛募集中です。

令和2年11月には東海北陸作業療法学会がこの富山で開催されます。

それに向けての準備、力試しとしてぜひ県学会で発表されてみてはいかがでしょうか。

演題募集期間 令和元年9月1日(日)～10月15日(火)

演題応募 富山県作業療法士会ホームページに掲載される演題登録ページ内の「演題登録の手順」に沿って行ってください。

県士会員の皆様！学会参加&演題募集（ポスター、口述）をぜひお待ちいたしております！

第19回 富山県作業療法学会 運営委員長 水上 馨

会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	高崎 信弘	ちむぐりさ	呉陽病院	
異動	橋場 彩乃	国立病院機構 富山病院	自宅	
異動	京田 裕紀	池田リハビリテーション病院	西能みなみ病院	
異動	石黒 佑季	成和病院	仁泉メディケア	
異動	湯浅 瑞恵	川田病院	駅南あずさ病院	
退会	滝川 雄大	氷見市民病院		
退会	米田 彩	矢野神経内科医院 海王デイサービス		
退会	福山 葉菜	桜井病院		
退会	安川 千耶	西能病院		
退会	湊 彩香	池田リハビリテーション病院		

令和元年度 第3回理事会

日時：令和元年6月2日(日) 12時30分より

場所：富山医療福祉専門学校

出席：齋藤、松岡、島津、吉波、藤井、吉村、森、渡邊、能登、大平、橋爪、桐山、松本、作田、

欠席：丸本、橋爪、小倉

《報告事項》

1. 各種事業について
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議
 - ・6月5日(水)開催予定。今後、第1水曜日に定例会議あり。出席者は、堀口氏(精神障害部会)にて調整。
2. 協会事業について
 - 2-1. ロボット事業について
 - ・5月29日の説明会には、齋藤協議会委員長、渡邊事務担当が出席。今年度の方針について、コーディネーターのニーズ・中林氏(富山大学)、シーズ・梶谷氏(国立研究開発法人産業総合研究所)と検討する。
 - 2-2. 訪問リハビリ地域リーダー会議
 - ・4月27～28日 山本典子氏(高重記念クリニック)が出席。
 - 2-3. 代議員選挙
 - ・5月25日 島津事務局長、丸本理事が参加。今年度任期最終のため、代議員選挙を予定。

3. 各部会、委員会などより
 - ・石川県で開催される臨床実習指導者講習会への県士会からの推薦者を以下の5名に決定。今年度中に県内で開催する同講習会の講師候補とする。県士会派遣：齋藤氏、高橋氏(南砺市民病院) 能登氏(かみいち総合病院) 丁子氏(富山リハビリテーション医療福祉大学校) 杉本氏(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)

《検討事項》

1. 各種事業について
 - 1-1. 2020年度東海北陸作業療法学会
 - ・学会長は齋藤会長となり、組織図、タイムスケジュール案について検討した。7月28日(日)に2020東海北陸、2019県学会合同研修会開催予定。
2. 協会事業について
 - 2-1. 第19回IT機器レンタル事業・IT活用研修会について、県士会の共催が承認された。

3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. ホームページの活用と円滑な連絡手段の検討について
 - ・7月以降の理事会にて、ホームページ担当塚田氏を交え検討する。
4. その他
 - 4-1. 各種外部からの表彰者
 - ・選定について3役で検討し、該当者なしとする。
 - 4-2. 総会決議を受け、桐山 由利子氏(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)を県士会副会長とする。

令和元年度 第4回理事会

日時：令和元年7月8日(日) 19時より

場所：いま泉病院

出席：齋藤、松岡、島津、吉波、藤井、吉村、森、渡邊、能登、大平、橋爪、桐山、松本、

オブザーバー：高林、塚田

欠席：丸本、小倉

《報告事項》

1. 各種事業
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議
 - ・6月30日 講演会。精神部会等から出席。
 - 1-2. 各種調査
 - ・主任介護支援専門員更新研修受講要件に関する研修会について調査 齋藤会長回答済
2. 協会事業、三士会協議会等
 - 2-1. ロボット事業
 - ・7月5日 第1回協議会開催。齋藤委員長、渡邊理事、中林氏(富山大学)、梶谷氏(国立研究開発法人産業総合研究所)出席。一般枠、推薦枠はまだ決まらず。他からの助成金も合わせることも検討。
 - ・8月24日 第2回推進委員会1名以上出席可能。齋藤会長、渡邊理事出席。
 - ・構成員：浜出氏(つつま園)、野田氏(南砺市民病院)、堂本氏(県デザインセンター)、中島氏(富山大学)、他随時。
 - 2-2. 訪問リハビリ地域リーダー会議
 - ・4月27～28日 山本典子氏(高重記念クリニック)出席
 - 2-3. 第19回IT機器レンタル事業・IT活用研修会
 - ・63名の参加あり。富山県の課題としてネットワーク作り
 - 2-4. 各種意向、現状調査
 - ・就労支援に関する士会活動アンケート調査(7/5㍻切) 齋藤会長回答

M 富山県義肢製作所
富山県補聴器センター



快適に!



快適に“歩く”“聴く”
をご提案する
富山県義肢製作所です。

義手・義足・コルセットの
製造を行っています。
歩きやすい靴・インソール
360°対応の補聴器の
販売にも力を入れ
皆様の QOL 向上を
サポート致します!

〒930-0042 富山市泉町1-2-16
TEL 076-425-4279 FAX 076-425-4587
E-mail t-gishi@cronos.ocn.ne.jp URL https://tpo-morita.com
営業時間 平日 8:30 ~ 17:00 土曜 8:30 ~ 12:00



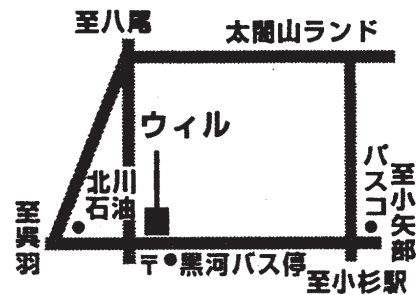
介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子
→ 480円より
ベッド
→ 700円より

リースナブル



株式会社 **ウイル**
TEL (0766) 56-7099
FAX 56-3395



- ・障害者スポーツに関するアンケート 島津事務局長回答

2-5. 3士会合同協議会研修会

- ・6月23日 地域ケア会議に関する研修会
- ・7月14日 介護予防教室に関する研修会

2-6. 山形県被災について

- ・特に義援金などの要請なし→対応方法を参考に富山県士会でも流れを

3. 各部会、委員会などより

3-1. 臨床実習指導者研修会（教育部）

- ・富山県士会より齋藤会長、高橋（南砺市民病院）、丁子（青池）、杉本（県リハ）、能登理事を石川会場の推薦枠とする。今年度中には富山県で研修会開催したい。

《検討事項》

1. 各種事業について

1-1. 2020年度東海北陸作業療法学会

- ・組織案：学会長 齋藤（事務局は富山医専。渉外担当未定）
- ・7月28日 特別研修会

2. 協会事業について

2-1. 47委員会（7/27～28）

- ・齋藤出席（オブザーバーなし）
- ・富山県士会よりポスター形式で報告予定。普及指導部の事業を中心にまとめる。

2-2. 東海北陸リーダー研修会

- ・2019年11月30日(土)・12月1日(日) 会場：金沢市内 候補者5名→桐山副会長+新部長など4名を理事推薦で検討する。

2-3. 地域ケア会議および介護予防・日常生活支援総合事業に関する人材育成研修会

- ・地域アドバイザー委員会より選出。大平氏、齋藤（県との繋がりある人枠）

3. 各部会、委員会などより

3-1. ホームページの活用と円滑な連絡手段の検討について（塚田氏より）

- ・地域活動報告書と閲覧について
県士会HPにGoogleフォームで作成したアンケート方式の活動報告書入力ページを掲載。
県士会員がそれぞれ入力ページを開いて入力・送信する。

閲覧ページを見る際はID/パスワードをHPに問い合わせる→いずれ広報に掲載。

- ・県士会メーリングリストの作成提案

富山県全施設が登録しているメーリングリストと、災害用に地区毎のリスト作成を提案。

これにより登録者全員が同じ情報を相互に伝達・共有できる。理事部長間で試行予定。

3-2. 災害リハについて

- ・総会での意見を受けての対応（案）

公益財団法人国際医療技術財団（JMTEF）の災害医療研修への参加、県士会員への還元。

- ・協会の災害想定訓練：9月25日 11時頃→今回は従来の連絡網にそった方法で実施。

3-3. 健康と長寿の祭典（普及指導部）

- ・開催内容変更に伴う、患者作品の販売場所がなくなったことへの対処。

- ・県学会や東海北陸学会などに、可能か伺う。

3-4. 臨床実習指導者研修会（教育部）

- ・梶 直美氏（富山リハ専）に依頼し、内諾。教育部と調整、連絡を企画。

賛助会員名簿

（順不同）

会員名（代表者）	住所
富山医療福祉専門学校 （学校長 長谷川 成樹）	〒936-0023 滑川市柳原149-9 TEL 076-476-0001
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 （学長 前島 伸一郎）	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いずみ会 温泉リハビリテーション いま泉病院 （理事長 大西 仙泰）	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 （校長 青池 浩生）	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 ウィル （代表取締役 黒田 勉）	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター （代表取締役 森田 忠浩）	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279



編集後記

作業療法士として働き始め8年が経ちました。今年は新入社員が3名入ってきました。新人教育をしていると新人の頃の気持ちが思い出されました。初心を忘れず今後も働いていけたらと思う今日この頃です。 (Y.I)